みんなのかなづかひ

2025

内容見本

はなごよみ

本誌の方針

歴史的かなづかひは二十一世紀の現代にも生きてゐる

一　全頁が歴史的かなづかひ（固有名詞や引用文などは除く）

・正字・正かな（舊字・舊かな）、または新字・正かな（新字・舊かな）

・漢字圏に長らく略字の傳統がある事は認め、時にはそれも使つて書く場合もあるものの、略字は略字であり、正字をお藏入りにして略字を正字に格上げする事には反對する

二　「似非舊假名遣」ではなく、本物の歴史的かなづかひ

三　「歴史的かなづかひ＝懷古趣味」といふ先入觀の打破

四　「歴史的かなづかひによる原稿が表記を改竄されることなく當然掲載される時代」を作り上げていく

歴史的かなづかひは一部の人だけのものではなく、讀みたい・書きたい「みんなのもの」である

目　次

國語國字問題特輯

写研フォントがパソコンに来た　……押井德馬　4
トンデモの論難を試みる　……名賀月晃嗣　7
その物語は眞實ですか？　……押井德馬　11
文藝誌の記述について　……山田喜弘　20
正かなづかひの停滞を打ち破るために悪あがきしたいぞって話　……コシヌケ１０４０　22

歴史的かなづかひの實踐篇

歩みの念　第九章　……明日槇悠　25
五つの大罪　……絲　38
キターンとぼつちと夏の虹　～『ぼっち・ざ・ろっく！』鑑賞記～　……blueday　45
原稿を書いてみませんか　……コシヌケ１０４０　50

表　紙　コシヌケ１０４０

写研フォントがパソコンに来た

押井徳馬

会社名は知らなくとも、実物を見ると懐かしさの蘇る「写研フォント」。これは写植機用に作られたフォントで、写研の写植機を用意した印刷所に頼まないと使へませんでした。

昭和末期とは、活版印刷（活字、つまり金属で出来たハンコのやうなものを一文字一文字並べて印刷用の版を作り、印刷する仕組）が徐々に減り、写植機（写真フィルムに文字の形を焼附けて印刷用の版を作るための機械）による組版が徐々に増えた時代でした。鉛を溶かすので暑くてオイルまみれ（そして鉛中毒防止にも気をつけてゐた）だった印刷所は、写植機に置換り、そしてすぐ後にコンピュータとデジタルフォントによる電算写植機に置換る事で、以前よりは環境の良いキラキラな職場に変貌したと聞きます。

そして世の中では写植機のフォントをあらゆる場所で見掛けるやうになりました。明朝体やゴシック体、楷書体だけでなく、ポップ体や丸文字など新しい書体も増えました。私が特に印象に残るものとして、黒柳徹子『窓ぎわのトットちゃん』の本文書体のかな部分にも使用された「タイポス」（グループ・タイポによりデザインされ、写研の写植文字盤として発売された。後にタイプバンクからパソコン用フォントもリリース）は、これまでにない、モダンで恰好良い雰囲気でありながら、読みやすくて品格もあるフォントでした。

ところが、一九八〇年代半ばにアップルの

題名・著者名　石井ゴシック
本文　石井明朝

タイポスＡ２８ Std R
あいうえお アイウエオ

國語問題特輯

トンデモの論難を試みる

名賀月晃嗣

今號のテーマは「トンデモ説を斬る」。まづは原稿募集要項に例示されてゐた中から幾つかを、さくつと斬つてみよう。

まづ「和多志」だが、そもそも「わたし」は「わたくし」のくだけたものである。いくら出鱈目とはいへ、「わたくし」ではなく「わたし」に漢字を當ててゐるあたり、仕事が雑に過ぎる。やり直せ。いや、やり直して貰つたところで仕方ないのだが。

次に「氣」。そもそも米の活力だの何だのといふわけの分からんものとは一切關係が無い。『説文解字』(一)に「氣は客に饋(おく)る芻米なり」とあり、「氣」は元々は人に贈る食べ物、あるいは人に食べ物を贈ることを表す字であつた。下部の米は單に食物を表してゐると考へるべきであらう。後に「氣」を現用の意味(元々は「气」で表された)に用ゐるやうになり、元の意味には「餼」を使ふやうになつた。『説文解字』は「氣」の異體字として「餼」を掲げてゐる。「氣」については、「気」のやうな半端な省略形を使ふくらゐなら、中共のやうに「气」を使ふ方がましだとは思ふが、トンデモ解釋とは關係が無いので深入りしない。

「そしじ」……『康熙字典』(二)に無い字を持つて來られましても。いや、「畑」のやうな例が無いわけではないが、それならそれで「そしじ」なる音の羅列が日本語として意味を成してゐない以上、まづは字義あるいは語義を、用例附きで寄越せとしか言へない。といふか、「氣」のトンデモ解釋にしても「そしじ」にしても、活力だかパワーだか何だか知らないけど摑み所のないふはふはした曖昧な話しか出て

その物語は眞實ですか？

押井德馬

私達は今なほ昔ながらの假名遣（そして場合によっては漢字も）で書き續けてゐますが、最近氣になるのが、「漢字は靈的な力のある文字」とみなす人の一部で近年急速に廣まってゐる「ＧＨＱ陰謀論」です。

①古來から「○○」といふ言葉が使はれてきたが
②戰後ＧＨＱが
③言靈の力を恐れて
④その言葉を封印し
⑤「××」といふ緣起の惡い言葉に改惡した

といふテンプレートの「○○」「××」にあらゆる言葉を入れた說が、あたかも眞實であるかのやうに語られてゐます。

それ以外にも、「漢字は日本で生まれて中國に渡った」など、一般的な說とまるで異る怪しい說明も時折インターネットで見掛けます。

これらは本當にその通りなのか、代表的な例を調べてみました。

和多志

「古來から『わたし』は『和多志』と書かれてきたが、戰後ＧＨＱが言靈の力を恐れて封印し、『私』といふ利己主義を助長する漢字に改惡した」と語られる事がありますが、少し調べれば誤りである事が直ぐに分ります。

①神樣の名前ではなく一人稱として「和多志」と書いた昔の文獻はまづ見當らない。

②江戸時代の「アマビエ」に關する有名な文書を含め、戰前の出版物で一人稱を「私」と書いた本は教科書や辭書、

小說など厖大に存在する。

③江戸時代は草書的に書き易い「王多之」の變體假名（？〻し）で書く事が多く、「和多志」はまづ見ない。

④昭和二十三（一九四八）年の「当用漢字音訓表」では「私」に「シ」「わたくし」の讀みしか認められず、「わたし」はかな書きさせられた。

氣

『氣』の字の『米』の部分はエネルギーを八方に發散する意味だが、戰後ＧＨＱが『〆』つまり『閉ぢ込める』に通ずる『気』に改竄した」といふ說については、ＧＨＱ統治下の昭和二十四（一九四九）年「当用漢字字体表」で「氣」が「気」に變へられた事だけは眞實ですが、それ以外は根據が不十分です。

①「気」は手書きなら戰前からある略字の一つ。

②『氣』の『米』の部分はエネルギーを八方に發散する形で、『気』の『〆』は『閉ぢ込める』意味」とは只の驗擔ぎで、字源としては疑問あり。

③昭和二十一（一九四六）年「当用漢字表」では「氣」だったが、國語行政へのＧＨＱの影響力が相對的に弱まった昭和二十四（一九四九）年に「気」に變へられた。國語問題協議會發行『國語問題協議會の栞』第五版はかう說明する。

〈引用〉

◇昭和廿四年四月廿八日、內閣訓令、告示に依り「當用漢字字體表」（漢字の字體改變及び略字、俗字を正とする）を公布。これは前年實施の手筈であつたが、聯合軍總司令部ＣＩＥ（民閒情報教育部）の言語關係擔當官ハルパーン博士に依り「傳統的な一國の文字は妄りに變改すべきではない」とて却下されてゐたもので、ハルパーン博士が解任歸國後直ちに公布されたのである。

④そんなに驗擔ぎが好きなら、米國の「米」が含まれる「氣」の方が米國に都合の良い字のはず。

⑤武道家の藤平光一による文章が元ネタである事が判明してゐる（たゞしＧＨＱではなく中國が「氣」を「気」にしたと說明してゐるが、中國本土公式の漢字としては誤りで「气」を使ってゐる）。

〈引用〉

なぜ「気」を「氣」と書くのか

（略）「米」の形をよく見ていただければ、中心から八方に広がっている状態を表しているのがすぐおわかりだろう。つまり、天体のように八方に無限に広がって出て行くもの、これが「氣」という意味であり、氣とは出すものなのである。

ルギーがスムーズに流れないやうに『あいうえお』に改竄された。『君が代』の『い』は「お」となりて』とは本來の順に戻る事を表してゐる」といふ説もありますが、これも誤りです。

①「あおうえい」の順の五十音圖が過去に存在した具體的な證據が無い。

②平安時代後期の一〇九三年、（石川縣の山代温泉の）温泉寺の住職であった明覺上人が著した『反音作法』では、既に「あいうえお」の順の五十音圖になってをり、現代に至る。

③「巖」の歴史的かなづかひは「いはお」ではなく「いはほ」であり、「『い』は『お』となりて」とは根據の無い只の駄洒落である。

そしじ

「宗・神・主」の合字で、「そう・しん・あるじ」から一文字づつ取って「そしじ」と呼ばれてゐる漢字が一部界隈で廣まってゐます。結論から最初に言ふと、これは「創作漢字」である可能性が高い事が明らかになってゐます。緣起の良い漢字を創作する事自體が悪いわけではありませんが、「そしじ」の一つ氣になるのが、「古來からあったこの字を、言靈の力を恐れたＧＨＱが封印した」といふ物語が、最近一緒に語られるやうになった事で、それだけは要注意。

①國會圖書館のウェブサイトやGoogle Booksで「そしじ」「宗神主」のキーワードで調べても、この合字について書かれた本が一冊も見附からない。

②『諸橋大漢和』にも存在しない字のやうで、戰前の國語辭典の『言海』や『廣辭林』等を調べても存在しない。

③インターネットで辿れる情報で一番古いものは、平成十八（二〇〇六）年に「英隆」氏が自身の「直感アーティスト.com」といふブログに書いた記事で、「この字は実在する文字ではありません。あくまでも造語というか、作られたものです。」と説明されてゐる。

http://blog.livedoor.jp/eiryuut/archives/50280805.html

④後に、平成二十一（二〇〇九）年に『にんげんクラブ』（オカルト・スピリチュアル系の著作を多く遺した船井幸雄氏による雜誌）のブログにもこの字について紹介されたが、「造語」「創作文字」と明言されてゐる。

https://web.archive.org/web/20230522191516/https://www.ningenclub.jp/blog02/archives/2010/11/post_772.html

https://web.archive.org/web/20230522191039/ht

小説

歩みの念

文：明日槇悠

九

山巓の雲にかくれて虹は見えなくなった。

近づくにつれ、山はおのが全体像をぼかし、等身大の細部へ目を向けさせる。遠くにあって目指した高みが、却って見づらくなるのだ。

いづれにせよ、圧倒的な存在を越えてゆくことになる。

山麓の若い男女が、冬空を仰ぎみる。担いだ御輿によって間接にふたりの手は繋がれてゐた。

雲端に鳶が舞ふ。強靭な翼があれば、峨々たる山嶺をも俯瞰してしまへる。翼を持たない者は、一足づつ前へ歩むしかない。

それでも心が羽ばたくなら、その羽は本当に翔ぶことがある。仮令いつ燃え尽きるか分らない道行でも。

金色の太陽に暈がかかってゐる。先に立つ若彦は眩さに片手を翳した。霊峰の麓なる肥沃な土地が霞んだ視野に浮き上がる。頭をもたげれば、開豁な土壌から緑いろが段々と薄れていくが、どこに雪をいただく高嶺との境目があるのか、見極めがつかない。後ろで千禰が長々と白い息を吐いた。

お返しのやうに、からっ風が縹緲たる傾斜面を吹き下りてきた。頭の芯まで凍えさうになりながら、ふたりはカチカチ歯を鳴らし合って笑った。さあ、これより地の極へ。

「おーい。どっちまで」

踏み出さう、といふところに上手から聴えた。声の主はと見ると、蓑をかぶった猟師が薄い緑の山肌に長い影を伸ばして此方を窺ってゐる。

「あっちだよ」

ふたりして頂上を指差すと、猟師の蓑がゆさゆさと左右に振れた。
「無理しなさんな。今からぢゃあ迚も迚も。そっち回ってけば山小屋があっから、一晩明かしてから行きな」
「こっちですか」
「ん。この山颪ぢゃあきっと」
後の聞き取れないことを天に呟いて、猟師は身を翻し狩りへ発った。
両腿をぴったり合せて、若彦と千禰は見送った。
「きっと、何てった？」
「さあ。御自身に言ひ聞かせるみたいだったから、猟のことかしら。でも、直に分るでせう」
猟師殿の忠告に従ひ、ふたりは山小屋を目指すことにした。
その見当から狼煙のやうなものが棚引いてくる。
小屋の煙突から風で流されてくるのだと予測はついたが、それにしても朦々たる勢ひだ。遠くの景色が朧にしか判らない。と思ひきや、いつかしら霧が出てゐたのだ。糅てて加へて面紗の奥から、より白いものがちらちらと舞ひ込んでくるではないか。
「きっと、雪が来る」若彦が諳んじてみせた。
「え？」
「さう言ってたんだ。仮令聞いたとしても後で知るしかないことって、あるものだな」
やがてふたりは小屋の前まで辿り着いた。
山茶花が一本立ちで赤い花をつけてゐる根方に、乾いた薪が山積みにしてあった。
猟師からの忠告を容れてもしばらくは、まだ明るいのだし休まずとも頂を制覇できると息巻いてゐられた。それが今や五里霧中で息も絶え絶えの有様だ。大した距離でもないはずなのに、脚をつかって全身持ち上げることはなんと大変な作業かと思ひ知らされる。自づと白旗のやうに揺らめく煙の麾下に入ることも吝かではなくなった。
「ごめんください」
敲いた戸から頬髯を蓄へた番人が出てきて、「よく来たね」と訳も聞かず迎へ入れてくれた。
鉄瓶の鳴る、囲炉裏を切った板の間に、どうやら先客が二人。
下座では、菅笠を深く被った旅人風の男が、黙然と胡座をかいてゐる。上座では、禿頭のまんまるいお爺さんが毛布を被って寛いでゐる。
部屋の隅へ御輿を下ろし、若彦と千禰も空いてゐる炉端に着く。かじかんだ指を熱でほぐしてゐると、小屋の番人が眞正面に坐った。
口火を切ったのは菅笠の客だった。

小説

五つの大罪

文：絲

パトカーが驅附けたのは午前五時半きつかりだつた。太陽は寒さに縮こまつて、まだ顔を出してゐない。ブルーノは車輛から飛降り、目を見張つた。カメラの映像は決して見間違ひでもフェイクでもなかつた。廢ビルの壁に、CIFが張附けられてゐた。兩腕、兩足、そしてコアに鐵パイプが突刺さつてゐる。相棒のサブロはゆつくりと脚部のタイヤを轉がして、彼の隣に立つた。舗裝されてゐない地面がじやりじやりと鳴つた。ブルーノは目を逸らした。

「酷いですね」

「『象徵的』つて事か？」

「慘いつて意味です」

「意欲は感じるな。何とか仕上げようつていふ」

「ふざけないで下さいッ！」

サブロは尊敬すべき刑事かも知れないが、人で言へば「無神經」なところが多々あつた。ユーモアとモラルの値がバランスを缺き、配慮といふものが無い。サブロとの仕事は樂しかつたが、ブルーノは度々叫んだり叱責したりする羽目になつた。彼はスキャナーアプリケーションのアイコンを連打した。

「目擊者は？　ゐなささうだな」

プライベートタイムを害された三等書記官は、早々に還らうとしてゐた。

「第一發見者がゐます」

ブルーノは端末を掌に乘せた。「どうぞ、ここに來て下さい」

證人はすぐさま召喚に應じた。

〈彼らの仕業と思ひますよ、書記官〉

それはCYL同士の內部通信だつたが、あいにくとブ

隨筆

キターンとぼつちと夏の虹
～『ぼっち・ざ・ろっく！』鑑賞記～

文：blueday

山田は自由行動中なのでタイトルにゐない事をお詫び致します云々。

といふ訣で『ぼっち・ざ・ろっく！』のＴＶ版と劇場総集編Re:／Re:Re:を観た結果としてクソデカ感情が湧き上がつてきたものですから、それを書き留めて消化といふか昇華したい所なのです。

ところで『ぼっち・ざ・ろっく！』のＴＶ版は二〇二二年一〇月期の放送になりますが、実はわたくしこれをリアルタイム視聴してをりません。それどころか、つい先日である二〇二四年五月のゴールデンウィークが初視聴となります。完全な「にはか」である事をお詫び致します云々。

いやしかし、もうだいぶ長い事アニメのリアルタイム視聴をする様な気力も失はれて久しい無気力人間と化したわしが、一クールアニメを一作品通しで視聴したといふだけでも快挙（当社比）なのです。さうしてそれに留まらずクソデカ感情まで湧いてくるなど、幾久しく無かつた事です。枯れ果てたと思つてゐた情熱の泉から再びどろりとした何かが噴き出したのです。生きるための活力がチャージされるのです。にんげんとして大切なものを少しでも取り戻せる気がするのです。

そんな自分語りの前置きがダラダラと長くなつて参りました事をお詫び致します云々、などと申しつつ、そろそろ本題である作品の感想語りに移りたいと思ひます。

編輯部より

原稿を書いてみませんか

中国語の表記に、中国本土とシンガポールで使はれる「簡体字」と、台湾や香港で使はれる「繁体字」があるのと同様、日本語の表記にも漢字と仮名についてそれぞれ二種類あります。「正漢字」（いはゆる「旧漢字」）と「新漢字」、「正仮名遣」（いはゆる「旧仮名遣」「歴史的仮名遣」）と「新仮名遣」（「現代仮名遣い」のこと）です。

「正漢字」や「正仮名遣」は、絶滅した国語表記ではありません。過去文献の引用、短歌や俳句をはじめとした芸術において、現代でも細々と使はれてゐます。

現代において、「正漢字」「正仮名遣」を読んだり書いたりする方には、様々な立場の方がいらつしやいます。

- 過去文献の引用に限り正字や正かなで書きたい
- 短歌や俳句に限り正かなで書きたい
- ブログや芸術作品等を正字や正かなで書きたい
- 今のところ書く事はしないが、正字や正かなで読みたい

本誌は、そんな皆さんを応援する為に、「全頁歴史的仮名遣（固有名詞や引用文は除く。また、漢字は正漢字を歓迎するが新漢字も可）の同人誌」として毎年発行してゐます。

原稿募集のお知らせ

「正漢字」「正仮名遣」は、読むだけでも十分楽しめますが、実際に書いてみると更に楽しめますし、学ぶ近道でもあります。皆さんも試してみませんか。

「『正字正かな』で原稿を書いても印刷を断られたり、『新字新かな』に直されたりする」のが残念ながら当り前の現

在、本誌は「『正漢字』『正仮名遣』の原稿がそのまま掲載される」のが「当り前」の、謂はば「解放区」です！

募集内容

・毎号のテーマに基づく随筆や論攷等（テーマ投稿）
・漢字や歴史的仮名遣について、国語国字問題について
・コンピュータで正漢字や歴史的仮名遣を使ふテクニック
・歴史的仮名遣による詩歌、小説、随筆、漫画等の作品
・半ページ〜四分の一ページ程度の短いコラム

国語問題に関する記事が多く集まる本誌ですが、テーマや国語問題に関係しない記事もむしろ歓迎いたしますので、お気軽にお書きください。

毎年秋発行、次号〆切は、二〇二五年九月頃を予定してゐます。次号のテーマはウェブサイトで発表予定です。

なほ、執筆者や校正・組版等の作業を手伝ってくださった方には、完成した冊子を二冊無料進呈致します。

投稿方法

本誌への投稿には、グループへの入会や会費のお支払ひは必要ありません（逆に、原稿料もお出しできません）。ただし、スムーズな聯絡の為に、原則として電子メールアドレスをお持ちの方に限定致します。「はなごよみ」のメールアドレスまで、ご遠慮なくメールでお問合せください。

原稿も、メール本文に書いていただくか、メールにファイルを添付してお送りください。なほ、記事に関するご確認のため、編輯・校正・組版担当者にメールアドレスをお伝へ致しますので、あらかじめご諒承ください。

また、スムーズな編輯・校正の為、以下の情報もメールでお知らせください。

①ペンネーム
②掲載ご希望の方はTwitter IDや電子メールアドレス（読者からの聯絡先として、なるべくご記入ください）
③ジャンル（解説、評論、小説、詩歌、随筆、漫画等）
④内容（国語教育に関するエッセイ、学園もの小説等）
⑤未完成の場合は予定文字数（文字数か原稿用紙換算）
⑥漢字、仮名遣
（正字正かな・新字正かな・広辞苑前文方式・新字新かな）

正字正かな　「櫻色のバッグを持つてゐる」
新字正かな　「桜色のバッグを持つてゐる」
広辞苑前文方式　「桜色のバッグを持つて居る」

新字新かな　「桜色のバッグを持っている」
　　↓　「桜色のバッグを持ってゐる」
　　に直して印刷
（ご希望により新字正かなではなく正字正かなにも直せます）
⑦捨て仮名（ひらがなカタカナとも使ふ・カタカナのみ使ふ［推奨］・使はない）
ひらがなカタカナとも　「桜色のバッグを持ってゐる」
カタカナのみ使ふ　「桜色のバッグを持ってゐる」
使はない　「桜色のバツグを持ってゐる」

一）新字正かな兼新字新かなの事。ひらがな・カタカナとも捨て仮名使用推奨。言葉選びの難易度が高いので、歴史的仮名遣に十分慣れた人向けです。

二）小さい「ゃ」「ゅ」「ょ」「っ」の事。

ファイル形式

文章は原則としてテキストファイルでお送りくださるか、メール本文にそのままお書きください。ワードや一太郎等ワープロソフトのファイルでも構ひませんが、文章校正機能を使用可能なワードまたはLibreOfficeを推奨します。

くの字点（〳〵・〴〵）は「／＼」「／゛＼」で代用しても構ひません。「正字正かな」をご希望の方は、コンピュータの一般的な文字コードに無い文字（二点之繞や「示」の形の示偏の漢字等）は新字で代用するか、注意書きを附加してください。編輯時に、フォントに字形のある範囲で、印刷用の正しい字形に直します。

写真やイラストや図ですが、残念ながらカラーは出ません（口絵を除く）。画像ファイルは、原則として文章とは別にお送りください（ワードで位置決めした内容をそのまま使ふのではなく、こちらで組版ソフトを使つて組み直すので、元ファイルが必要です）。また、可能な範囲で、縮小されてゐない、なるべく大きなサイズをご用意ください。なほ、本誌のサイズはＡ５版です。詳しくはメールでお問合せください。

著作権について

皆様の原稿は、「同人誌（紙版および電子書籍版）の原稿として」および「必要に応じ、同人誌頒布の際の内容見本として」使用しますが、作者に許可をいただかない限りは、それ以外の目的（他の本の原稿に転用する等）では使用しません。

また、前述の目的に限って、皆様の原稿を使はせていただきますが、原稿の著作権そのものを譲渡していただくといふ意味ではありません。後でご自分の原稿を（ウェブサイトに載せたり個人誌・同人誌・商業誌に載せる等）どう活用していただくかは、お任せします。

それでは、皆さんの作品を心よりお待ちしてゐます。

本のDIYで……更に表現の自由！

従来は……

~~正漢字・歴史的かなづかひ~~ で書くのは自由 でも

→修正

新漢字・現代仮名遣い に直して出版します

これからは……

正漢字・歴史的かなづかひ（本誌はこちらが原則）

新漢字・現代仮名遣い

どちらもパソコンで自己出版